インクルーシブなまちづくり in 小川町

- 障害者と高校生の視点から -

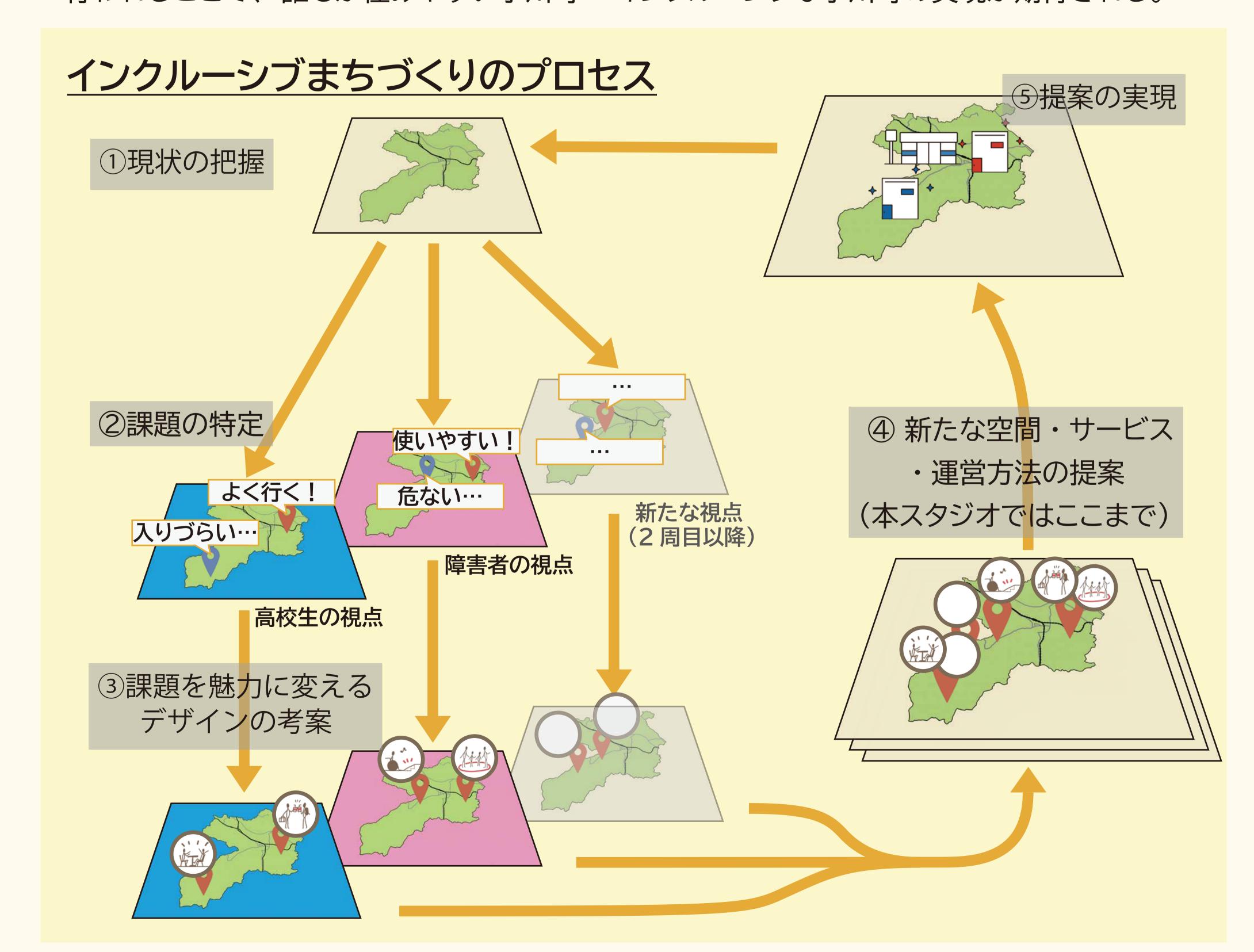
泉湧太(自然環境学専攻M1) 鷺谷大輔(国際協力学専攻D1) 百瀬 晴菜(社会文化環境学専攻M1)

提案の概要

インクルーシブ社会:あらゆる属性や特性のある人々が誰も排除されない社会 我々は小川町にある「もの」ではなく小川町の「ひと」に着目した。目指すのは、従来の まちづくりに参加する機会がなく、また焦点が当たりづらい人の立場に立つことで、まちに 必要なものを見つけ出すことである。

今回は障害者と高校生を対象とし、彼らから見る小川町や彼らが小川町に求めるものを拾い 上げ、それをもとに我々は提案を行った。

この取り組みが子ども、高齢者、長年この町に住む人、移住者…と様々な属性の人に対して 行われることで、誰もが住みやすい小川町 = インクルーシブな小川町の実現が期待される。



小川町の障害者

我々が目指すのは、誰もが主役になれる小川町。

障害の有無に関係なく、すべての人が公平に暮らせるインクルーシブな未来を描いていく。

障害者の声と4つのバリア



車いす使用者のAさんと弟

ヤオコーにいく時にこの道を

車椅子は通りにくいんだよね。

いつも使うんだけど

トイレは、リリックとかヤオコーとか

お店にもバリアフリートイレが



バスがいつもの場所に止まらなくて、 降りた後に駅がどっちか わからなくなることがあるんだよね。 バス停近くに車が停まっている

せいなのかなあ。

視覚障害のあるCさん



音響式信号機が

片側にしかなくて、 使うのにちょっと不便なんだよね

駅に行くとき必ず通る道だから あると助かるんだけどな。

夕方以降、障害のある子どもを 預ける場所がなくて困っちゃう デイサービスも大体17時まで だから、働く親には厳しくて・・・。

もっと遅くまで預かってくれる ところがあると助かるなぁ。

知的障害のある D さんの親



この高架下の道、狭くてさ、

車がすれ違うとき本当にヒヤッとしちゃうんだよね。 もう少し広かったら安心して通れるのになあ。



この歩道、幅が狭くて、 横を人が通るときなんか、 避けるのに気を使うんだよね。 移動支援サービスって、 予約が取りづらい上に、 行きたい場所に自由に行けなくて 使いにくいんだよね。

物理的なバリア

- ・歩道の未整備
- ・バリアフリートイレの不足
- ・スロープの不足
- ・スロープの急勾配
- ・誘導ブロックの不足

コミュニケーション・ 情報のバリア

車いす使用者の B さん

- ・点字・音声情報の不足
- ・音響信号機の不足
- ・バリアフリー地図がない
- ・障害者やその家族同士のつながり

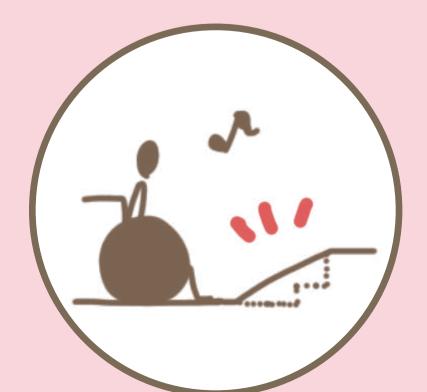
制度のバリア

- ・生活サポート事業所 /
- 移動支援サービスの利用困難
- ・グループホームの受け入れ不足
- ・相談員の負担 ・自立生活センターの不在

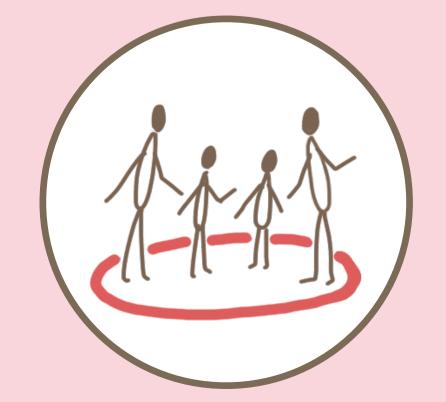
態度・心のバリア

- ・障害特性への理解不足
- ・障害者とのコミュニケーションでの 不安/偏見/ためらい/過剰な配慮
- ・交流のきっかけ・場の欠如

バリアフリー整備



障害者グループの活動促進



利用者特性への配慮 支援体制の強化



交流の場の設置

